

児のそら寝（文法）

今は昔、比叡の山に見^Aありけり。僧たち、^A宵の^Iつれづれに、「いぎ、かいもちひ^Iせむ。」と^U言ひけるを、この児、^{II}心よせに聞きけり。さりとして、し出ださむを待ちて^E寝ざらむも、^①わろかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝たるよしにて、出で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

この児、^{III}さだめておどろかさむずらむと、^オ待ちあたるに、僧の、「もの申しさぶらはむ。おどろかせたまへ。」と言ふを、^②うれしとは思へども、ただ一度に^カいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれて^{IV}いらへむと、^キ念じて寝たるほどに、「や、な起こしたてまつりそ。をさなき人は、寝入り^クたまひにけり。」と言ふ声の^③しければ、あな、^Vわびしと思ひて、いま一度起こせかしと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、^④ずちなくて、^B無期ののちに、「えい。」といらへたりければ、僧たち笑ふこと限りなし。

問一 傍線部Ⅰ～Ⅴの意味として適切なものを次から選びなさい。

- ア 愛情 イ 所在なさ ウ 答える エ 我慢する
オ きつと カ つらい キ 期待

問二 傍線部A・Bの読みを現代仮名遣いで答えなさい。

問三 傍線部ア～クの活用の行・種類を答えなさい。

問四 傍線部①～④のうち仲間はずれはどれか。数字で答えなさい。

問五 次の活用表を完成させなさい。

問一	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
問二	A	B	
問三	ア	イ	ウ
問四	ク	キ	カ
	オ	エ	

	基本語	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
①	あり						
②	す						
③	言ふ						
④	寝ぬ						
⑤	かゝる						

⑤	④	③	②	①	
いらふ	寝ぬ	言ふ	す	あり	基本語
へ	ね	は	せ	ら	未然形
へ	ね	ひ	し	り	連用形
ふ	ぬ	ふ	す	り	終止形
ふる	ぬる	ふ	する	る	連体形
ふれ	ぬれ	へ	すれ	れ	已然形
へよ	ねよ	へ	せよ	れ	命令形

問四	問三	問二	問一
(③)	ア (ラ行変格活用) イ (サ行変格活用) ウ (ハ行四段活用) エ (ナ行下二段活用) オ (ワ行上一段活用) カ (ハ行下二段活用) キ (サ行変格活用) ク (ハ行四段活用)	B A (よい) (むご) ()	I イ II キ III オ IV ウ V カ